

〔参 考〕

1. 八丁原バイナリー発電施設の概要

項 目	仕 様	
設置台数	1	
メーカー	オーマット社(イスラエル)	
定格出力	発電端	2,000kW(2,230kVA,力率0.9)
	送電端	1,720kW
媒体蒸気	圧力/温度/流量	1.09MPa* / 133.2 / 105.77t/h
蒸気・熱水	圧力/温度	0.304MPa* / 143.1
蒸気流量		17.825t/h
熱水流量		64.14t/h
タービン型式		衝動横置2段復水タービン
発電機型式		横置円筒回転界磁形同期発電機
復水器型式		空冷式
熱交換器型式		横置シェルアンドチューブ型
制御方式		中央制御方式による常時監視自動制御

(* MP a : メガパスカル 圧力の単位)

2. 開発経緯

平成15年 5月	基礎工事開始
平成15年 8月	着工
平成15年11月	初並列
平成16年 2月	実証試験開始

3. RPS制度(Renewables Portfolio Standard)の概要

電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法
平成14年6月公布,平成14年12月一部施行,平成15年4月全面施行

RPS制度とは、「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」に基づき、エネルギーの安定的かつ適切な供給を確保するため、電気事業者に対して、毎年、その販売電力量に応じた一定割合以上の新エネルギー等から発電される電気(以下、「新エネルギー等電気」という。)の利用を義務付け、新エネルギー等の更なる普及を図るものです。

項 目	内 容
新エネルギー等 利用義務対象者	一般電気事業者,特定電気事業者,特定規模電気事業者
新エネルギー等電気 対象エネルギー	風力,太陽光,地熱,水力(水路式の1,000kW以下の水力発電),バイオマス(動植物に由来する有機物であってエネルギー源として利用することができるもの)
利 用 目 標	経済産業大臣が,4年ごとに,総合資源エネルギー調査会の意見を聴いて,当該年度以降の8年間に電気事業者が利用する新エネルギー等電気の利用量の利用目標を定める。現在の利用目標は,平成22年度において全国で122億kWh/年(全国の販売電力量の1.35%相当)